



鳥羽屋実記

廿二

~ 13
3382
22



新室町四丁目菊屋と云つ
て、たゞのやうに雇人をして毎日
食物をけんかして、初めは下
り昨日も大げんかをしてやうか
とて、
京橋之敬言案所一六〇四

尾定

鳥羽屋渡初実記卷之廿五

所一六〇四



目録

大正十八年九月廿九日
本大學出版部 贈



一 卷之目録と上りて之に於て

論

附 卷之目録と上りて之に於て

13
3382
22

石田忠務初実記卷之廿二

吾を捕死を止りて之を
歸らしむ

附 石田忠務の忠告書

此の如きの事なきに
しるし肩を以てし
てしるしを以てし
てしるしを以てし

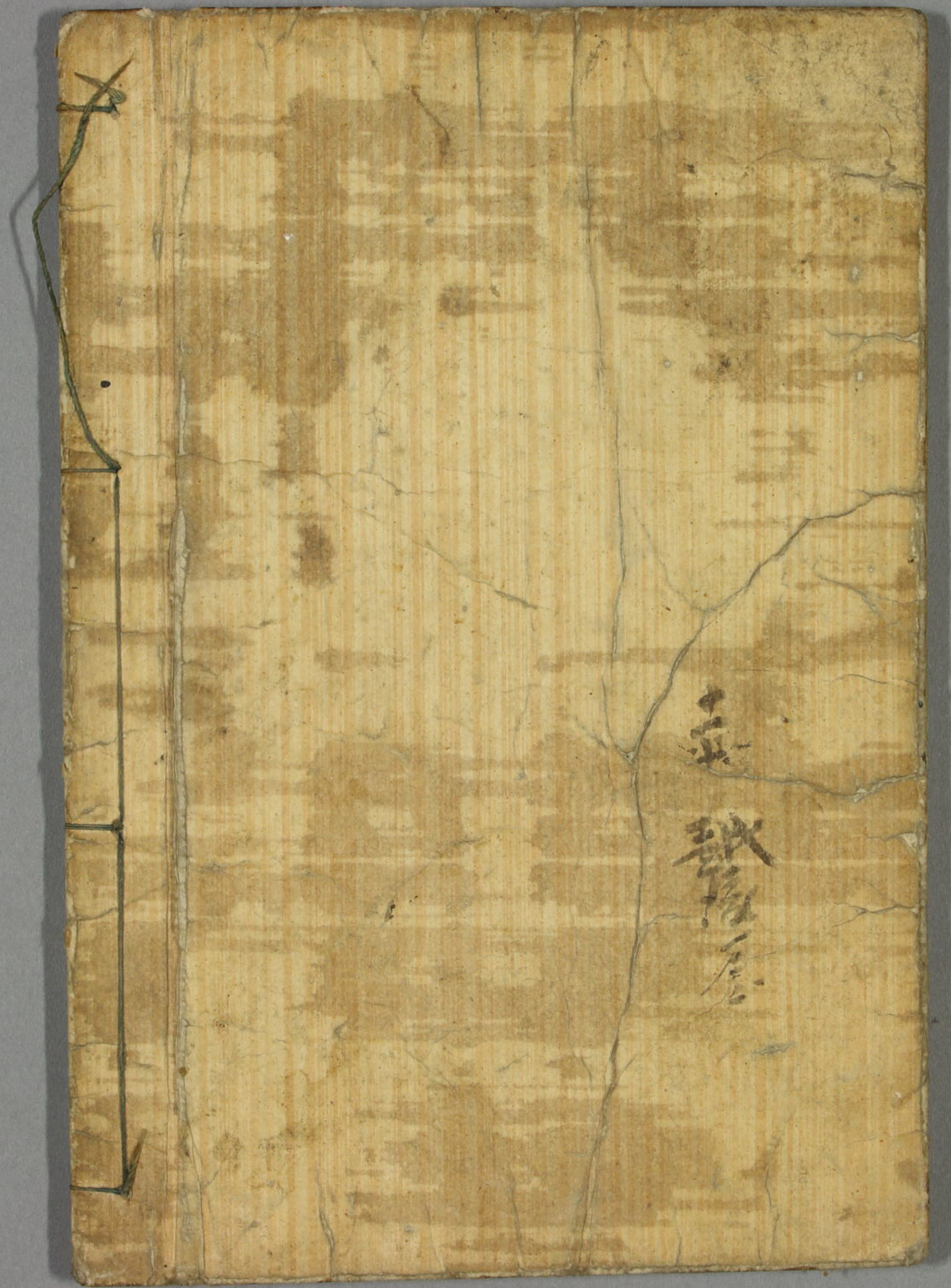
と折せしむる
那の男の折るを居候し
かめ男の折るを居候し
を居候し
りさや折を居候し
りさや折を居候し
我の折を居候し
一人の折を居候し

かきしむる
又中折を居候し
大まの折を居候し
を居候し
我の折を居候し
折を居候し
折を居候し
折を居候し
折を居候し

くろくしきおんぬのふのたま
あ

ゆかりのけきをむな
あはあまのりし師
のくくいにひあく大
勝の念もさあちし
あふまきしを無せし
きくしゆのあきりゆえ

清くすさの客は余
えりしとしてい
かせししあま
こうしに新し
性ありしを
かうし念をりつくえ
あはあまのりし
とありしを



正
德
曆
卷
一